

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひまわりの里
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	山之口恵美
記入日	平成 21年 10月 18日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各職員にアンケートを取り、一人一人が利用者様が安心して生活していくには何が大切か考え、これまでの理念を見直して独自の理念を作り上げている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を書いた紙をトイレなど必ず目に付く場所に張り、毎日確認し実践に向け取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる			
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方とは挨拶など声の掛け合いを行っている。時々野菜等頂く事もある		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		○	現状としては全く参加出来ていない為、行事等に参加する等して交流する事に努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の一番身近な相談窓口となるよう努めている。地域の方が相談に来られる事はあるが、積極的な地域貢献活動は行っていない。	○	今後は地域の高齢者などが安心して暮らせる街づくりに、事業所・福祉施設の職員として何が出来るか話し合い地域へ出て取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価を実施する意義を理解し、評価で出た事は毎月ミーティングを設け、職員全員で見直し改善していく様に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	案内を出しても参加が少なかったり参加なかったりで、現在では行事の際に来られた御家族と職員での話し合いになっている。	○	今後は他の施設の状況も聞き、開催時期や日程について再考慮していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護や介護認定の切り替え等で頻繁に行き来がある。また、地域包括支援センター、行政との話し合いの場に参加する等して、地域全体で連携して取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者様の必要性に応じて制度を活用できるように支援している。	○	地域権利擁護事業や成年後見制度について、全職員が熟知しているとは言えない。成年後見制度は実際利用されている方もおられる為、今後学ぶ機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っているミーティング等で高齢者虐待防止について話し合い、また資料に目を通し虐待防止への徹底に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度きちんと説明を行い、その場で不安や疑問点がないかを尋ね、納得して頂いた上で契約・解除をしてもらうようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様本人から直接意見や不満等言ってこられる事もあり、また職員の方から尋ねる等しそれをもとに改善点等を話し合い生かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた際に、最近の様子を簡単に話すようにしている。また、毎月家族へ最近の暮らしぶりや健康状態等書いたお便りを出すようにしている。適宜電話による報告も行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際、直接意見等言って頂ける事もあり、電話等でも常にお伺いしその都度管理者・職員で話し合い改善に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等の際、職員の意見を聞く場を設けている。また、日頃より職員が意見を言いやすい職場環境である様努め、一人一人の気付きを大切にしすぐにケアに反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スムーズに対応できるように、勤務の調整など行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑えるよう努力している。日頃よりユニット間で相互に職員が行き来し、職員が交代する際も全体でフォローするよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて外部へ講演を聴きに行ったり、研修を受けに行ったり等、スタッフの負担にならない程度で教えるように努めている。また、毎月のミーティングの際には、日々のケアに直結したテーマで勉強会をしたり、新人研修リーダーに対する個別指導を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで同業者の方と交流する場を持ち、意見交換など行っている。また、月1回地域の13の事業所が集まり、コミュニティ推進の為にネットワークづくりや勉強会を行い質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1か月に1～2回の連休があり、また、年に数回のレクリエーションの場を設け、ストレス解消を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の努力や勤務状況を把握し、それぞれが向上心を持って働けるように努めている。	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでにご本人と直接話す機会を設け、受け止める努力をしている。(来訪なしの入居は受け付けていない)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに御家族と直接話す機会を設け、話し合いを行い受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々々の状況に応じ対応していけるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族とのホーム見学や体験デイ、体験宿泊等を行い、まずは新しい生活環境に慣れて頂く事を第一に考え、利用者様本人が安心された上でサービス提供を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	御本人と同じ目線・同じ立場に立ち、一方通行にならない様利用者様から学んだり、教えて頂けるような場面を作るようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状を毎月のお便りで御家族様へお知らせする様にし、また必要な時はすぐに連絡を取り、一緒にご本人を支えていく関係を築いていくよう努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御本人と御家族がより良い関係を築いていけるよう、行事等に参加して頂けるように家族に毎月のお便りに手案内を行い声掛けを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人達との関係が途切れないように、利用者様本人へ確認した上で面会や電話等の対応している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士の関係を日々の生活の中で把握し、場合によってはスタッフが間に入りより良い関係を築いていただけるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も、気軽に施設に来て頂けるような関係を築くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らしと変わらず、なるべくご本人の希望に沿った生活が出来るように支援している。困難な場合は、ご本人と話し合いをし検討するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、事前に一人一人の情報はサマリー等を通し把握するようにしている。また個々人の生活歴をまとめた情報書を作成し、その方のこれまでの人生を知りコミュニケーションに生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人と日々コミュニケーションを図り、その中でご本人の生活リズム、心身状態を把握するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人がより良く生活出来る為、ご本人やご家族から意見を聴き、それを元にケアに生かしていくように努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行い、個人の現状に合ったものを作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々それぞれの個別記録を書き、スタッフは常に目を通すようにし利用者様の様子を把握した上で、介護計画等の見直しにもつなげていくようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の外来受診、在宅医療や歯科往診の利用や人工透析を受けながらのホームでの生活等多機能性を生かし、出来るだけご本人やご家族の要望に応じた支援が出来るように努めている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	教育機関と協力し音楽療法の実習や、小中学生の職場体験学習の受入、ボランティアさん等に来て頂き、外部の方々との交流を行っている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○ 他のサービスも利用出来る様、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いの場を設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべくご本人御家族などの希望を大切に、安心して上で適切な医療を受けられる様支援を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	何かあったらすぐにかかりつけ医へ相談出来るような関係が出来ており、また利用者様から相談があった場合でも速やかに対応して貰っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師等気軽に相談しながら、利用者様の健康管理等について意見交換を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様の情報等を入院先へ提供し、また入院後も情報交換を行い、対応の仕方等事前に把握しておくようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の事などかかりつけ医から話を聞き、ご家族にも定期的に話し、全員で方針を共有しその方のターミナルケアを行っていけるように努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医よりきちんとターミナルケアの指導をして頂き、情報交換もこまめに行い連携していくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	御本人・御家族としっかりと話し合いを行い、環 境の変化にも対応していけるよう情報交換など も行うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	その場面場面で相手の気持ちになって考え、言葉 だけでなくノンバーバルコミュニケーションも活用しながら 個々人の誇りやプライバシーに配慮している。個人情 報に関しては事務所で管理し適切に取り扱ってい る。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	どんな事でも必ずご本人と相談し話し合った上で 決めるようにしている。普段からご本人がどの様 な思いや希望を持っておられるのか知り、その意 向に沿えるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	一人一人の生活リズムや希望に合わせて過ごして 頂ける様常に心がけ、決してスタッフ側のペース で行わないように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	定期的に移動美容室に来てもらい、カット・カ ラー・パーマ等利用者様の希望通りして頂いてい る。以前より馴染みの店がある利用者様は、御家 族と一緒にいられている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のその日の状態に合わせて調理の下ごし らえや食器洗い下膳等して頂いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ある程度の時間や量を決め、利用者様と話し合った上で個々人が楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄リズムを検討し、排泄の失敗を減らせるよう努めている。出来るだけオムツやリハパン・パット等を使用せず、ご本人と相談しながら一人一人に合った支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯はある程度決められているが、その方の希望に合わせて入浴は楽しんで頂けるように努めている。入浴日以外の希望には足浴等にて対応している。	○	今後は、一人一人がお好きな時に入浴を楽しんで頂けるような支援が出来るよう取組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく個々の生活リズムを大切に、習慣や体調に合わせて休息等として貰うようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1回はイベントを企画し、外部のボランティアや子供達との交流・運動会等、楽しめる気晴らしの支援をしている。また、日頃は一人一人の生活歴に合わせて炊事やぬり絵、新聞の切り抜き等お好きな事をして頂けるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事に特に制限はなく、一人一人の希望に合わせて支援している。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人より希望があれば外へ出られるように支援している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やドライブ、ピクニック等を企画し御家族へも案内をお出しして交流を支援している。又、御家族来訪時には外出をお勧めし、外食や買い物等家族との時間を過ごして頂けるように努めている。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があれば自由に電話のやり取りをして頂いている。又、希望があれば年賀状等の支援も行っている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	心地良く過ごして頂ける様環境整備に努め、いつでも気軽に訪問できるように努めている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を読み理解に努めている。パーソン・センタード・ケアを全ての職員が基本とし、拘束のないケアに取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外鍵はかけていない。外のゲートも日中は閉めず利用者様が自由に入出し、好きな場所で思い思いに過ごして頂けるよう安全面に配慮し支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の過ごし方に合わせて、定期的に居室へお伺いしたり声掛けをして所在の確認を行い、状態の変化に注意している。又、その情報を職員間で共有しケアにあたっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生命にかかわる危険物については、ご説明の上事務所にて保管。その他の注意物については、それが無くなる事でのその方に起こり得る影響を十分考慮し、安全に使用して頂くにはどうしたらよいか職員間で話し合い安易に事務所預かりにしないよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作り事故防止に努めている。又、ヒヤリハットや事故報告書の検討を行い、ケアの見直しや環境整備に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応については、会議にて指導を行いマニュアルも作成しているが定期的な訓練は行っていない。	○	全スタッフが月に1回は必ず訓練を行えるよう取組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	災害時の対応手順を事務所へ掲示し、スタッフへは非常災害時対応マニュアルを配布している。会議の際は管理者による指導も行っているが、避難訓練等は行っていない。	○	定期的に避難訓練を行い、一人一人の利用者様に合わせた避難方法を具体的に学びたい。又、地域との連携をとれるよう働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族には現在の対応と今後のリスクについてきちんと説明し理解して頂いた上で対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段のご様子や既往等の情報の把握に努め、異変の速やかな発見と対応をチームで行っている。主治医や御家族にもすぐ連絡出来るようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表を置いてあり、各利用者様の情報をすぐに確認出来るようにしている。又、誤薬等を防ぐ為服薬担当者だけでなく、スタッフ全員で確認するシステムを作り徹底している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝牛乳を飲んで頂いたり、日頃から補水に気をつけている。又、毎朝体操を取り入れ、日中も少しでも身体を動かして頂く様運動や生活リハビリに努め、腹部マッサージ等も行っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔洗浄は基本として一人一人に合わせて支援し、清潔に努めている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理をし栄養の過剰摂取を避け、個々の状態に合わせた支援を行っている。又、一人一人の排水量を考え、食事・お茶時以外でもその方に必要な水分量を摂って頂くようにしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成しいつでも確認が出来るようにしている。又、玄関に張り紙をする等してスタッフだけではなく来訪者にも注意喚起を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1処置1手洗いを慣行し、隣の事務所にアルコールを置き常に消毒を行い調理に入っている。調理用具や台所回りは毎日消毒清掃を行っている。食材は冷蔵庫衛生管理チェック表に基づき毎日確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外のゲートは夜間以外は開放しており、自由に行き来が出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や絵、その月に合わせたクッションを取り入れ、五感で季節を感じて頂けるよう支援している。又、不快な音にも気をつけ安心して生活出来る環境作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自由にお好きな所で過ごして頂ける様にしている。又、気の合った利用者様とどこでもゆっくりお話し出来るよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物は出来るだけ長年愛用されて来た物を使って頂き、御家族からのお手紙やお好きな絵・写真を飾るのをお手伝いし、御本人が安心して以前と変わらない生活出来るよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行い不快な匂いがないようにしている。利用者様居室は個々人の希望や体調に合わせて、御本人と相談し温度調節を行い、皆様が集まる場所では適温に保つようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	一人一人の状態に合わせて、手摺りや滑り止め マットを設置したり、居室内の家具の配置も考慮 し安全にそして安心して生活出来るような環境作 りをしている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	一人一人に合わせた声掛けをするよう気をつけ、 安心して生活出来るよう支援している。大きな文 字や張り紙などをし、解りやすい環境作りをして いる。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭や玄関周りベランダには草花を植え、一緒に花 を摘んだり、草むしり等の活動が出来るよう支援 している。又、ベンチやテントを用意し庭で外気 浴やお茶会を楽しんで頂けるようにしている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	③ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①ターミナルケアに関しては在宅医療と連携がとれている為、ご家族、かかりつけ医、職員が一体となった終末期ケアが出来ている。しかしグループホームが終の棲家ではなく、ご家族の元へ帰る場所である様、最期は御家族と一緒に御自宅で迎えて頂けるよう取り組んでいる。
- ②作業療法士が勤務しているので専門的な支援が受けられる。又、必要に応じて有資格者によるアロママッサージ等の施術も行っている。